

アフリカにおける統合的湖沼流域管理 (ILBM) の推進

イベントの
延べ参加者数

35 人

生態系サービス価値共有アセ
スメント(ESSVA) 調査地点数

250 地点

活動の全体目標
に対する達成度

90%



住民の意識評価調査票 (ESSVA 調査票) 紙

◆成果と工夫したポイント

●成果

- ・ケニアを中心に ILBM の普及活動が進み、ILBM プラットフォームプロセスが定着しつつある。
- ・ILBM を住民参加で展開していくための ESSVA の手法を開発、3 湖沼で実施し、結果を共有した。

●工夫

過去 20 年以上実施している ILBM 研修など、当財団のこれまでのアフリカにおける活動と連携させた。

課題

アフリカの湖沼は水質汚濁等多岐に係る課題を抱えており、その背景として利害関係者が湖沼流域の管理に関与しておらず、ガバナンスが適切に機能していない点があげられる。

目標

- ・生態系サービス価値共有アセスメント (ESSVA) 調査の手法を開発し、実施する。
- ・東アフリカにおける ILBM 推進の拠点となるよう、ケニアで ILBM を定着させる。
- ・西アフリカへの拡がりを促進する。

活動内容

- ・ESSVA 調査項目の決定やその実施に向け、ケニアより専門家 5 名を招聘し、6 日間に渡るワークショップを日本で開催した。
- ・ケニアの 3 湖沼で ESSVA 調査を実施し、湖沼を含む流域における生態系サービスが、生活に及ぼす影響を住民が評価し、その結果を解析した。
- ・実施した ESSVA 調査の結果を受け、ケニアにおいて専門家 30 名が出席したワークショップを開催した。その結果は UNEP 等の国際機関とも共有した。



ケニア専門家との
ワークショップ (8 月)

達成できなかったこと

ILBM のケニア全体、さらには東アフリカ、西アフリカ等への普及が今後の課題であり、普及のためには、長期的な視点での取り組みが求められる。

今後の展望

ILBM のケニア主要湖沼への普及と、ケニア以外のアフリカ地域への普及のための活動を行っていく。